

## HTLV-1 抗体陽性の場合の栄養方法の選択について（第 2 案）

### 母親への説明書

#### <はじめに>

HTLV-1 の主たる感染経路は母子感染です。さらに、母子間では母乳を介する感染が最も重要です。そのため、生まれた児に対する栄養方法の選択により母子間の感染率が異なる可能性があります。以下の説明文を十分に読んで、出生後の栄養方法を自らの意思で決めて下さい。栄養方法が決まれば、その栄養方法が確実に実施できるように支援させていただきます。また、疑問点についても、お答えさせていただきます。

#### <母子感染が起こる経路>

母乳を介する感染は、母乳中のリンパ球に存在する HTLV-1 ウイルスが直接児に吸収されることで感染が成立します。したがって、母乳を飲まない、あるいは母乳を一度冷凍保存してリンパ球を死滅させることで母乳を介する感染の危険性を回避することが可能です。ただし、母乳を全く飲まなくても一部の児では母子感染が見られ、出生前あるいは分娩中に感染している可能性も指摘されています。一方、生後 3 か月以下だけしか母乳を飲ませなかった場合には、母子感染率は人工乳と大きな差がないことも報告されています。

#### <栄養方法別の母子感染率>

現在までに分かっている栄養方法別の母子感染率は表 1 の通りです。凍結保存した母乳による感染率は、人工乳と同等と推測されますが、現時点では例数が少なく、確実なデータとは言えません。また、3 か月以下の直接母乳例についても、3 か月で母乳を確実に中止できなかった場合には、感染率が上がることになります。

表 1 栄養方法別の母子感染率

栄養方法	陽性	陰性	合計	%
人工乳のみ	51	1502	1533	3.3
凍結母乳	2	62	64	3.1
3か月以下の直接母乳栄養	3	159	162	1.9
4か月以上の直接母乳栄養	93	432	525	17.7

（平成 21 年度厚生労働科学特別研究 HTLV-I 母子感染予防に関する研究）

#### <栄養方法の選択>

母子感染予防の観点からは、以下の 3 つの栄養方法から 1 つを選択することが望ましいです。

#### ① 完全人工栄養

- ② 凍結母乳栄養
- ③ 3か月以下の直接母乳栄養

<栄養方法別の長所と短所>

3つの栄養方法にはそれぞれ長所と短所があります。したがって、長所と短所を十分に理解して栄養方法を選択して下さい。表2にそれぞれの栄養方法とその長所と短所を示します。栄養方法の決定される時にそれぞれの長所と短所を参考にして下さい。栄養方法が決まれば、その栄養方法が確実に家庭に実践できるように支援させていただきます。

表2 栄養方法別の長所と短所

栄養方法	人工乳のみ	凍結母乳栄養	短期母乳栄養
長所	母乳を介した感染を予防するにはもっとも確実である	母乳栄養の利点がある程度活かすことができる	母乳栄養の利点を活かすことができる
短所	母乳を全く飲まずことができない	人工乳と同等に感染を防ぐ可能性があるが、データ数が少なく確実でない	一度開始した母乳栄養を短期で確実に止めることが困難な場合がある

(平成22年度 HTLV-1 母子感染予防対策保健指導マニュアル (改定版) 参照)

<おわりに>

ご不明な点はなんでもスタッフまでお尋ね下さい。また、さらに詳しい情報が必要な方は、<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou29/index.html> をご参照下さい。